

第 11 回日本小児耳鼻咽喉科学会議事録 評議員会

日時：平成 28 年 6 月 29 日(水) 16 時 40 分～17 時 30 分

場所：ホテルクレメント徳島 4F クレメントホール東

出席者：飯野（理事長）、伊藤、宇佐美、小川、小林、阪本、鈴木、武田、中川、増田、益田、峯田、守本、山嵜（理事）、氷見、松谷（監事）、市村、川城、田中（顧問）、安達、井口、小河原、奥中、工藤、坂田、佐藤、杉内、鈴鹿、竹内、田中、千田（い）、長井、中井、仲野、西村、二藤、任、林、春名、日高、兵頭、望月（高）、望月（博）、安井、山下、横山、余田（評議員）、有本、香山、新鍋、深美（幹事）（50 音順、敬称略）

1. 飯野ゆき子理事長挨拶

本学会総会・学術講演会開催にあたって挨拶が述べられた。出席者および武田憲明会長への謝意が述べられた。

2. 武田憲昭会長挨拶

武田憲昭第 11 回会長より，本学会総会・学術講演会開催にあたっての協力・支援に対する謝意が述べられた。

議事録署名人に井口評議員と工藤評議員が指名された。本評議員会は出席者と委任状で定足数を満たしていることが報告された。

協議事項

1. 平成 27 年度評議員会議事録確認

平成 27 年 5 月 7 日に行われた平成 27 年度評議員会の議事録の確認と承認がなされた。

2. 平成 27 年度事業報告について（庶務：守本理事）

〔平成 27 年 5 月 1 日～平成 28 年 4 月 30 日〕

- 1) 第 10 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成 27 年 5 月 8 日～9 日の 2 日間、軽井沢町において信州大学耳鼻咽喉科 宇佐美真一会長のもとに開催した。
- 2) 第 11 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成 28 年 6 月 30 日～7 月 1 日の 2 日間、徳島市において徳島大学耳鼻咽喉科 武田憲昭会長のもとに開催を準備した。
- 3) 第 12 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成 29 年に獨協医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科 春名真一会長のもとに開催することが決定した。
- 4) 第 13 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成 30 年に東海大学小児科 望月博之会長のもとに開催することが決定した。

- 5) 日本小児耳鼻咽喉科学会誌 36 巻 3 号、および 37 巻 1 号、2 号を刊行した。
- 6) 平成 27 年度第 1 回理事会および評議員会を平成 27 年 5 月 7 日に開催した。第 2 回理事会を平成 27 年 10 月 22 日に開催した。
- 7) 学会会計より 1,000 万円を学術振興特別資産とした。
- 8) 「小児耳鼻咽喉科診療指針」改訂委員会を発足した。
- 9) 日本耳鼻咽喉科学会主宰の関連する学会懇談会に出席した。
- 10) 小児急性中耳炎診療ガイドラインの改訂、小児滲出性中耳炎診療ガイドラインの改訂に委員として協力した。
- 11) 日本小児耳鼻咽喉科学会 会員数：平成 28 年 6 月 13 日現在

名誉会員 2 名
正会員 1157 名 (前年度 正会員 1162 名)
団体会員 8 名
購読会員 5 名
<u>寄贈会員 6 名</u>
1176 名

3. 平成 27 年度決算報告(会計：小林理事)

小林会計担当理事より、決算報告、資産の説明があった。

4. 会計監査報告(監事：氷見監事)

平成 28 年 6 月 10 日に監査を行い、適正であったことが報告された。決算報告とあわせて承認された。

5. 平成 28 年度事業計画(案)(庶務：守本理事)

[平成 28 年 5 月 1 日-平成 29 年 4 月 30 日]

- 1) 第 10 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成 27 年 5 月 8 日～9 日の 2 日間、軽井沢町において信州大学耳鼻咽喉科 宇佐美真一会長のもとに開催した。
- 2) 第 11 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成 28 年 6 月 30 日～7 月 1 日の 2 日間、徳島市において徳島大学耳鼻咽喉科 武田憲昭会長のもと開催する。
- 3) 第 12 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成 29 年 6 月 2 日～3 日の 2 日間、獨協医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科 春名真一会長のもとに宇都宮市にて開催を準備する。
- 4) 第 13 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成 30 年 6 月 7 日～8 日の 2 日間、東海大学小児科 望月博之会長のもとに開催を準備する。
- 5) 小児耳鼻咽喉科学会誌 第 37 巻 3 号、および第 38 巻 1 号、2 号を刊行する。
- 6) 理事会および評議員会を平成 28 年 6 月 29 日に開催する。
- 7) 日本耳鼻咽喉科学会主宰の関連する学会会議に出席する。
- 8) 学会ホームページの充実をはかる。

- 9) 「小児耳鼻咽喉科」を刊行する。
- 10) 会員名簿情報の収集、把握に努める。
- 11) 小児期外科系関連学会協議会に出席し、日本小児連絡協議会（四者協）の活動に委員として協力する。
- 12) 小児急性中耳炎診療ガイドラインの改訂、小児滲出性中耳炎診療ガイドラインの改訂に委員として協力する。

6. 平成 28 年度予算(案) (会計：小林理事)

平成 28 年度予算案について報告があった。事業費、管理費に加えて予備費の項目を設けたこと、事業費の中にシステム管理費および編集費を加えることが報告された。また、予備費は小児滲出性中耳炎診療ガイドラインのリーフレット作成の費用にあてられることが述べられ承認された。

7. 会員名簿管理について (ホームページ：益田理事)

会員情報調査の情報の誤りや不備の解消のために、再度会員に個人情報を確認するためのメールを送信すること、メールの返信がない会員やメールが届かなかった会員、メールアドレスの登録がない会員に対しては郵送で連絡をとる作業を業者に委託することが提案され、承認された。

8. オンライン投稿査読システムについて (学術誌編集：鈴木理事)

昨年は J-STAGE オンライン投稿査読システムの公募がされず、今後も期待できない状況である。そのため、日耳鼻会報と同じ ScholarOne 社オンライン投稿査読システム『Scholar One Manuscripts』(初年度契約料 75 万円、2 年目以降は 26-29 万円) を利用することが提案され、承認された。

9. 役員任期に関する確認と会則改定について (会則：内藤理事、代理阪本理事)

新評議員の承認は評議員会で行うことが確認された。会則第 16 条 3 の顧問の任期を、「顧問の任期は 3 年とする。ただし再任を妨げない。」と改定することが提案され承認された。また、評議員の任期は理事の任期と同じ区切りとし、理事の改選に合わせて 3 年毎に更新とし、65 歳以上では再任されないことが確認された。

10. 評議員の辞退および推薦について (庶務：守本理事)

宇理須厚雄先生が評議員を辞退されたことが報告された。

平成 27 年度第 2 回理事会および平成 28 年度第 1 回理事会にて新評議員として以下の 26 名が推薦された。足立雄一先生（富山大学医学部小児科）、伊藤秀一先生（横浜市立大学小児科）、井口広義先生（大阪市立大学医学部耳鼻咽喉科）、井原健二先生（大分大学医学部小児科）、梅野博仁先生（久留米大学耳鼻咽喉科）、大島猛史先生（日本大学医学部耳鼻咽喉科）、大嶋勇成先生（福井大学医学部小児科）、奥村彰久先生（愛知医科大学小児科）、北原糺先生（奈良県立医科大学耳鼻咽喉科）、倉富勇一郎先生（佐賀医科大学耳鼻咽喉科）、近藤康人先生（藤田保健衛生坂分種報徳会小児科）、斎藤康一郎先生（杏林大学医学部耳鼻咽喉科）、竹島康弘先生（兵庫医科大学小児科）、堤剛先生（東京医科歯科大学耳鼻咽喉科）、

徳山研一先生（埼玉医科大学医学部小児科）、中田誠一先生（藤田保健衛生坂分種報徳会耳鼻咽喉科）、深尾敏幸先生（岐阜大学医学部小児科）、星川広史先生（香川大学医学部耳鼻咽喉科）、堀井新先生（新潟大学医学部耳鼻咽喉科）、松原篤先生（弘前大学医学部耳鼻咽喉科）、吉川衛先生（東邦大学医療センター大橋病院耳鼻咽喉科）、吉田尚弘先生（自治医科大学附属さいたま医療センター耳鼻咽喉科）、田中康広先生（獨協医科大学越谷病院耳鼻咽喉科）、土井勝美先生（近畿大学耳鼻咽喉科）、井脇貴子先生（愛知淑徳大学健康医療科学部）、深美悟先生（獨協医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科）の26名が承認された。

1 1. 第14回総会・学術講演会 会長選出の件（飯野理事長）

九州大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科の中川尚志教授が推薦され承認された。

1 2. その他

田中顧問より小児耳鼻咽喉科における言語発達の専門医確立を切望されていることが述べられた。

報告事項

1. 学術誌編集委員会報告（鈴木理事）

36巻3号、37巻1号を刊行したことが報告された。

2. ホームページ委員会（益田理事）

ホームページの訂正があれば益田理事まで連絡するように依頼された。

3. 用語委員会（中川理事）

特に報告事項なし。

4. 保険医療委員会（峯田理事）

OtoLAMTMによる鼓膜切開の保険収載に向けて、日本耳鼻咽喉科学会に提出する資料を作成するために現在調査をしていることが述べられた。

5. 会則改定委員会（内藤理事）

特に報告事項なし。

6. 学術委員会（小川理事）

第13回ESPOが6月18日から21日にリスボンにおいて開催され、日本からは7名が座長やパネリストとして参加した。2年後はストックホルム、4年後はマルセイユで開催予定である。また、APOG（Asian Pediatric Otorhinolaryngological Group）との交流のために、第12回小児耳鼻咽喉科学会において演者を招いてサテライトシンポジウムを開催する計画が述べられた。

7. 国内学術委員会（山中理事）

特に報告事項なし。

8. 「小児耳鼻咽喉科診療指針」改訂版「小児耳鼻咽喉科」の刊行について（飯野理事長）

小児耳鼻咽喉科診療指針が発行され7年が経過しており、新しい知見も出てきているため、「小児耳鼻咽喉科」という本名で教科書的な内容で改定することが報告された。

9. 日本耳鼻咽喉科学会 男女共同参画連絡担当委員について（飯野理事長）

日本耳鼻咽喉科学会から各学会に男女共同参画の推進の要請があり、峯田理事を男女共同参画連絡担当委員とすることが報告された。

10. 学会年会費未納者（守本理事）

小児耳鼻咽喉科学会年会費未納者（26年度、27年度）が報告された。

11. 第12回総会・学術講演会 春名眞一会長ご挨拶

来年6月2日、3日に宇都宮市で予定しており、大勢の参加を期待していると述べられた。

12. 第13回総会・学術講演会 望月博之会長ご挨拶

再来年6月7日、8日に横浜市で予定しており、学会が盛会となるよう準備をすすめていくと述べられた。

13. 第14回総会・学術講演会 中川尚志会長ご挨拶

学会が盛会となるよう準備をすすめていくと述べられた。

以上。